

オープン市場短信 (2019年8月)

2019.8.8

◆ 7月のCP市場動向

7月末のCP市場残高は21兆5,822億円と、前月比大幅に増加し(+3兆1,222億円)、月末残高としてはリーマンショック前に記録した22兆5,325億円(2008年8月末)以来の高水準に達した。発行市場は、期末要因によって発行残高を調整した企業が月初より積極的に発行を再開し、連日、大型発行案件が取り組まれるなど活況であった。業態別残高では、一般事業法人が9兆1,418億円(前月比+3兆3,302億円)、金融機関が1兆3,440億円(同+780億円)と増加した。一方、その他金融は9兆9,085億円(同△670億円)、ABC Pは1兆1,879億円(同△2,190億円)と減少した。発行レートは、発行増にもかかわらず投資家やディーラーの購入ニーズが強く、概ね浅いマイナス~0%近辺の出合いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ~0.0018% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ~0.0240%

【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	7月末残高	6月末残高	増 減
一般事業法人	91,418	58,116	33,302
その他金融	99,085	99,755	-670
金融機関	13,440	12,660	780
政府系金融	0	0	0
銀行等	2,940	2,730	210
証券	10,500	9,930	570
ABC P	11,879	14,069	-2,190
計	215,822	184,600	31,222

(注：買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

7月のCPレートレンジ

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	△ ~ △	△ ~ 0.0000%	— ~ —
a-1 (一般事業法人)	△ ~ 0.0010%	△ ~ 0.0150%	△ ~ 0.0018%
a-1+ (リース銘柄)	△ ~ △	— ~ —	△ ~ △
a-1 (リース銘柄)	— ~ 0.0015%	△ ~ △	△ ~ 0.0240%
a-2	△ ~ ケ0.15%	— ~ ケ0.15%	0.0040% ~ ケ0.15%

《CPオペ》

CP等買入オペは、オファー額は月間で合計4,500億円と前月比△3,000億円減少した。オファー額の減少により、按分落札レートの上昇を予想する向きもあったが、ディーラーの応札姿勢がやや消極的であったため、9日は前回比横ばいの△0.003%、26日のオペでは△0.001%と若干の上昇にとどまった。

〈月末オペ残高：2兆1,850億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月9日	7月12日	2,000	4,505	1,990	-0.003%	-0.002%	16.1%
7月26日	7月31日	2,500	6,060	2,450	-0.001%	0.003%	88.6%

《ABC P》

ABC Pは、1兆1,879億円と期末要因剥落で前月比+2,190億円の減少となり、前年同月（1兆1,885億円）比横ばいであった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、7月末時点における発行登録企業数は変わらず、527社であった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは運用ニーズ強く、マイナス～0%近辺での出合いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP発行市場は、例年は夏季休暇を取得する企業が多く発行が閑散になりがちだが、今夏は資金調達ニーズが旺盛で現在期落ち対比で発行超となっている。本格的にお盆入りする次週はやや発行が減少すると思われるが、お盆明け以降、企業は活発に発行を再開するだろう。月末発行残高は21兆円台後半に達し、前年同月比で30ヶ月連続の増加を予想する（前年同月：19兆3,813億円）。発行レートは、投資家やディーラーの購入ニーズが強く、一般事業法人（a-1格付）の銘柄でマイナス～0%近辺、その他金融・リースの銘柄（同格付）でマイナス～0.04%台での出合いを予想する。

《CPオペ》

今月のオペのオファー額は、6日と27日の合計5,000億円の予定となっている（前月比+500億円の増額）。6日に予定通り2,500億円でオファーされ、結果は按分レート $\Delta 0.001\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.001\%$ と、前回比（按分 $\Delta 0.001\%$ ・平均 0.003% ）で按分レートは横ばい、平均落札レートは低下した。27日のオペは、月末スタート分の入れ替えニーズもあって、今回比横ばい推移を予想する。

《CP現先市場》

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き0%近辺での出合いを予想する。

* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

【7月末発行残高 上位10社】

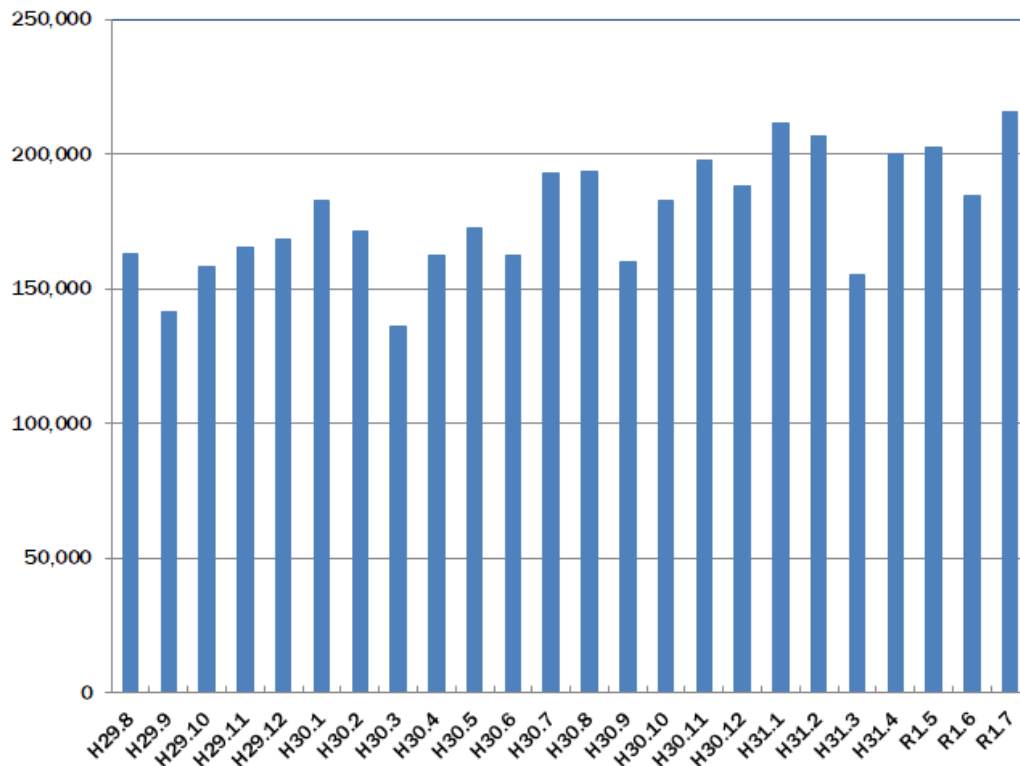
(単位：億円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三菱商事	11,639	3,800
2	三井住友ファイナンス&リース株式会社	10,059	10,569
3	NTTファイナンス株式会社	9,850	9,850
4	三菱UFJリース株式会社	7,626	7,778
5	東京センチュリー株式会社	7,506	6,506
6	株式会社クレディセゾン	5,960	5,400
7	興銀リース株式会社	5,500	5,500
8	芙蓉総合リース株式会社	4,722	4,822
9	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	4,606	5,429
10	三菱重工業	4,410	1,960

【短期社債市場残高】

(2017年8月～2019年7月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会